

マダガスカル・日本ビジネスフォーラム
堀井学外務大臣政務官の御挨拶

(ビジネスフォーラム：12月5日 9:00-11:50,
於：ホテルニューオータニ「おり鶴・麗」)

ラジャオナリマンピアニナ大統領閣下,
マダガスカル政府閣僚の皆様,
石毛JETRO理事長,
奥村アフリカ・インフラ協議会(JAIDA)代表,
御列席の皆様,

はじめに、外務省を代表し、ラジャオナリマンピアニナ大統領の訪日と今回のビジネスフォーラムへの皆様の御参加を心から歓迎いたします。

今回の大統領の訪日は、52年ぶりのマダガスカル国家元首による公式訪問です。ラジャオナリマンピアニナ大統領をお迎えし、日本とマダガスカルの友好・協力関係が新たな段階に踏み出すことを嬉しく思います。

マダガスカルは稲作文化を発展させた島国であり、アジアを起源とする祖先をお持ちの国民がいらっしやると伺い、とても親近感を感じます。また、マダガスカルは東部・南

部アフリカへの玄関口に位置し、豊かな自然や希少な鉱物資源に恵まれており、今後大きく発展するポテンシャルを秘めています。本日多くの日本企業の皆様がお集まりになったことは、可能性にあふれるマダガスカルへの高い関心の証左です。

本日のフォーラムでは、インフラ開発と鉱業などの有望分野に焦点をあてた議論が行われると承知致します。日本企業はマダガスカルに「質の高いインフラ」を提供することに大きな関心を寄せています。我が国はマダガスカル最大の商業港であるトアマシナ港整備を支援しており、本年3月、そのために452億円の円借款の交換公文に署名しました。7月には、マダガスカルで国土交通省が「官民インフラ会議」を開催し、多くの企業がマダガスカルを訪れました。経済発展に伴い、マダガスカルではインフラ需要も一層増大するとみられます。日本企業がインフラ開発においてマダガスカルのパートナーとなれば、両国の友好・協力関係はより一層強固になるでしょう。

鉱物資源分野では、世界最大級のニッケル・コバルト生産事業であるアンバトビ・プロジェクトに日本企業が参加しており、マダガスカルは日本にとって最大のニッケル供給国となっています。同時にこの事業は、マダガスカルにとっても経済を支える重要な基幹産業であり、日本とマダ

ガスカル両国の緊密な経済的結びつきを象徴するプロジェクトであると言えます。

本年7月に、マダガスカルで活動する日本企業とマダガスカル企業が、日本・マダガスカル経済同友会（AEMAJA）を立ち上げました。この会は日本とビジネス関係を有する在マダガスカルの全ての企業に開かれているということです。今後、両国の民間セクターがより一層交流を深めていくことを期待いたします。

また、教育・人材育成は国造り及び経済開発の基礎であり、日本は産業人材や資源開発を始めとする幅広い分野で、マダガスカルの未来を担う世代を後押ししています。アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブであるABEイニシアティブを通じて、これまでに23名のマダガスカルの若者が日本で学んでいます。

両国のパートナーシップは二国間の協力にとどまりません。TICAD VIで我が国が打ち出した「自由で開かれたインド太平洋戦略」はアジアとアフリカの結びつきをこれまで以上に強固にするものです。インド洋の結節点に位置するマダガスカルは地政学上の要衝であり、海洋安全保障においても緊密に協力を深めて参りたいと思います。

今回のラジャオナリマンピアニナ大統領の訪日を契機として、両国の友好と協力の絆を一層強化していきたいと思
います。日本は官民を挙げて、御列席の皆様と共に、両国
間の貿易・投資の促進に向け全力を尽くしてまいります。

ありがとうございました。

(1450字≒5分)